

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人一人の希望を叶える進路を実現する
- 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う
- 3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を充実させる
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現

(1) 希望の進路の実現に向け、教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する。

ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに、生徒の自学自習の促進を図る。

イ 授業における ICT の活用を進め、視覚化、情報活用による授業効果を定着させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 28 年度 72.4%）を、平成 31 年度には、80%にする。

(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、進路実績を向上させる。

ア 1、2年次から進路に合わせた進学講習を実施することで、早期の目標設定につなげる。

イ 進路決定まで、学年進行に合わせて、基礎学力調査における判定を、各々 1 ランク向上させる。

ウ 大学等との連携や補習、自習室活用の拡充により、難関大学の進学実績を向上させる。

※ 重点目標として、1年次 9月実施の基礎学力調査・学習到達度調査 Bゾーン以上（平成 28 年度 35.3%）を、平成 31 年度には、40%にする。

※ 国立・難関私立大学の合格者数を、平成 28 年度 16 人を、平成 31 年度には 30 人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成 28 年度 21 人を平成 31 年度には 60 人に近づける。

2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う

(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。

ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する。

イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。

ウ 「部活動」の活性化により、学校生活をより充実したものにし、その活動を通して、公共心を育む。

※ 生徒向け学校教育自己診断における生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 28 年度における満足度「文化祭・体育祭」87.3%、「生徒会活動」83.9%、「部活動」83.1%を、平成 31 年度には、90%に近づける。

3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を充実させる

(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深める。

ア 藤井寺支援学校との交流活動を拡充し、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し、活動に生かす。

(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充する。「地域に根ざした、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする。

ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる。

イ PTA、同窓会の協力の下、海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる。

(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。

ア HP のさらなる改善を図り、情報発信を強化する。

イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらに ICT を活用し、視覚的に「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく PR する。

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする

(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。

ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、一人一人の生徒支援の充実を図る。

イ 98%の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る。

(2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の展望を検討する。

ア 「藤高向上促進委員会」を設置し、将来に向けた展望を検討していく。

(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。

ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 今年度は、「生徒が主体的に授業に取り組む」、「教科横断の授業研究システムの構築」、「授業における ICT 活用の促進」について、昨年度に引き続き取り組んだ。自学自習（家庭学習）時間の伸長に向け、リクルートが展開するスタディサプリを取り入れた。現在、200 名近い生徒が活用しており、特に、入試対策を補填することができている。</p> <p>◇生徒アンケート 生徒の学校教育自己診断の結果は、21 項目中、20 項目で昨年度より向上した。低下した 1 項目は、「学校は国際交流活動に力を入れている」</p>	<p>第 1 回（平成 29 年 6 月 23 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤高は、順調に進んでいる。 ・中学生の進学希望者も非常に多い。 ・生徒の挨拶、自転車マナーもできている。 ・「スタディーサプリ」の内容（スマホやタブレットにダウンロードすることで、授業の映像を見て勉強できるアプリケーション）を確認したので、効果を期待する。 ・若い先生たちの育成のために、「ひよたま（経験年数の少ない教員集団）」を中心に行っている「授業研究」研修会をさらに進めてほしい。

府立藤井寺高等学校

で、0.1%低下した。

ICTの活用を示す「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある。」は、昨年81.2%から84.0%と、さらに向上した。ほとんどの授業でICTの活用ができており、授業の改善につながっている。

◇保護者アンケート

全20項目の中で、全学年の平均が、昨年度に比べて向上したのは、11項目、残り7項目は、ほぼ横ばい、2項目のみが低下した。低下したのは、「学校は、国際交流活動に力を入れている。」が昨年80.7%から74.6%になった。これは、隔年でニュージーランドのパパヌイ高校が本校を訪れているが、今年度は訪問のない年であったことが影響していると考えられる。(一昨年も73.6%であった。)もう1項目は、「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」が昨年66.5%から60.8%になった。特に、1年生の保護者の数字が低く、今後、メールサービス活用の周知を図っていく。

◇教職員アンケート

全20項目の結果は、ほぼ横ばいであるが、特に教育活動に関する項目においては、9割を超える肯定度となっている。「各教科で教材の精選や工夫を行っている。」は、96.5%、「生徒の実態をよく考え、指導方法の工夫や改善を行っている。」は、91.3%、「生徒指導において、学校と家庭の連携が出来る。」は、91.2%、「各生徒の興味や関心に応じた進路選択が出来る指導を行っている。」は、91.1%、「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫や改善を行っている。」は、98.3%であった。日々の教育活動への意欲が表れている。

・進路について、大学進学希望者は推薦入試に流れていく風潮の中で、一般入試を推しているとのことであり、生徒たちを最後まで頑張らせてほしい。

第2回(平成29年10月24日)

- ・スタディサプリについて、生徒から生徒に評判が広まり、申し込みが増え、復習等で活用しているとのことなので、さらに推し進めてほしい。
- ・教育庁学校経営支援グループの支援による研修会(「ひよたま」の活動)について、その成果を、次年度の「学校経営計画」に盛り込むとのことであるので、期待している。
- ・10月の第48回衆議院議員総選挙に合わせた「模擬投票」の取組みは興味深い。アンケート結果から、生徒たちは、しっかり考えて投票したとのことであったので、今後も続けてほしい。
- ・SNSに関する問題について、藤高では情報モラルに関する指導ができています。
- ・外部で開催の説明会では、藤井寺高校の説明時は常に満員であった。過去に定員割れするという危機的状況もあったが、現在は良い状況が続いている。
- ・部活動の中でも、全国大会や近畿大会に出場している写真部が頑張っている。是非とも「写真甲子園」に出てほしい。
- ・小学校では、「他人のことを考えよう」と教えている。藤高生の取組み(小学校での学習ボランティア)を子どもたちが身近に見ており、見習うことで励みになっている。

第3回(平成30年2月26日)

- ・センター試験の結果はどうであったか。
→最高で7割ほどの正答率の生徒が1名、6割ほどの生徒が2名いた。これらの生徒は国公立大学等への進学を希望している。他の受験者は5割程度かそれ以下の成績であった。
- ・ダンスサークルは、今後、「部」になるのか。
→先日顧問会議と生徒議会を行い、「ダンスサークル」が次年度から「ダンス同好会」昇格することが決定した。次年度は、「同好会」が「部」に昇格するための会議を行う予定である。
- ・保健室に来る生徒は、どのような理由でくるのか。
→友人関係やそれに関する悩みを相談に来る生徒が多い。しかし、その内容が「いじめ」や「心の病」になっているケースはない。
- ・ノークラブデーについて、藤井寺高校ではどのような取組みがあるのか。
→ノークラブデーはクラブによって違うが週1日部活動を休みにしている。また、毎週水曜日は19時に一斉退庁(校)する日としており、達成できている。クラブによっては土日のどちらかを休みにしている部活動もある。
- ・昨年藤井寺市で防災訓練を行った際に、藤井寺工科高校の生徒が参加し、被害にあった人たちの救護に参加していた。藤井寺高校ではどんな避難訓練をしているのか。
→全体としては校舎から避難するだけだが、部活動部員を対象にAEDの講習を行っている。今後、本校生も藤井寺市の防災訓練に参加することも考えていく。
- ・スタディサプリの結果に関して、質問の質が向上したとはどういうことか。
→生徒が、動画で一度勉強(予習)してきているので、基本的なことを理解し時間短縮になっている。それにより、応用的なことまで教えることができる。
- ・藤井寺北小学校の生徒は、フェス体や放課後のボランティア交流を通して、藤井寺高校の生徒に憧れを抱いている。そういう藤井寺高校の活動を今後も続けていってほしい。
- ・様々なアンケートの結果から、先生と生徒のやり取りが適切だということが見えて、スタディサプリを利用して学力も、さらに上がって行ってほしい。
- ・ノー残業デーを推進する一方で、たくさんのノルマが増えてきているが、頑張っノークラブデーと部活動指導を両立してほしい。
- ・学校経営計画及び学校評価の中で、自己評価に関して、昨年度は△が多かったが、今年度は○が増えるだろう。だが、○△に一喜一憂することなく、3～5年のスパンで計画を立て、良い学校作りをしていってほしい。スタディサプリのような新しい取組みがあつていいなと感じた。さらなる教育相談体制の強化や地域と協力した防災時の支援体制をつくり、地域との関係を強固にしていってほしい。

府立藤井寺高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	<p>(1) 希望の進路の実現に向けた、教員の指導力の向上、生徒が主体的に授業に取り組む工夫</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の育成</p> <p>イ 授業における ICT 活用の促進</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実</p> <p>ア 2年次からの看護・医療系進学講習の充実</p> <p>イ 基礎学力の向上</p> <p>ウ 自習室活用の拡充</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の育成のために、事前学習となる「予習」につながる「宿題」を増やすとともに、「授業における振り返り」を徹底し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>イ 全学年のHR教室に設置したプロジェクトを効果的に活用した授業を展開していく。</p> <p>(2)</p> <p>ア 増加する看護・医療系進学希望者に対応するため、2年次から看護・医療系講習を実施し、早い段階から意識の向上と学習内容の定着を図る。</p> <p>イ 1年次から進路に向けた意識づけを行うことで、基本となる1年次の基礎学力の向上を図る。</p> <p>ウ 日々の自習室の活用を促進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成28年度72.4%)を、75%にする。</p> <p>イ 同自己診断による「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」(平成28年度81.2%)を、85%にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」(平成28年度78.1%)を、80%以上にする。</p> <p>イ 1年次の基礎学力調査学習到達度Bゾーン以上の生徒の割合を、(平成28年度35.6%)を、40%にする。</p> <p>ウ 自習室の活用を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数を、平成28年度16人を、平成29年度には20人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成28年度21人を、平成29年度には30人に近づける。</p>	<p>(1)</p> <p>アについては、(平成28年度72.4%)が77.1%となり、目標を超えた。(◎)</p> <p>イの「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」も(平成28年度81.2%)が84%となり、目標に近づいた。(○)</p> <p>教員の意欲、指導力が向上している。</p> <p>(2)</p> <p>アの「進路や職業について適切な指導を受けられる」は、(平成28年度78.1%)が79.1%となり、80%に近づいた。(○)</p> <p>次年度は、さらに早い段階から進路指導を進めていきたい。</p> <p>イの基礎学力調査学習到達度Bゾーン以上(平成28年度35.6%)は、32.5%となり、目標に達しなかった。ただ、平均点は昨年を上回っており、Sゾーンの生徒も出てきている。(△)</p> <p>ウの国公立・難関私立大学の合格者数は、17人、それに準じる有名私立大学合格者数は、38人であった。(○)</p>
2 学校行事や部活動を通して、公共心を養うとともに、生徒の主体性、創造性を育成すると	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力の育成</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織を企画・運営する生徒の力の育成、及び生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部と3学年団が連携し、生徒のリーダー集団を育成する。そのリーダー集団に、企画から1、2年を巻き込んだ組織運営に取り組ませる。</p> <p>イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営の中で、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる。</p> <p>ウ 新入生に向けて、入部の促進を図り、「部活動」の活性化につなげる。また、各部の活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア イ 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」(平成28年度87.3%)を、90%にする。</p> <p>また、同自己診断による「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会がよく活動している」(平成28年度83.9%)を、85%にする。</p> <p>ウ 同自己診断による「本校は部活動が盛んである」(平成28年度83.1%)を、85%にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イの「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」は、(平成28年度87.3%)が90.0%となり、さらに向上した。(◎)</p> <p>「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会がよく活動している」は、(平成28年度83.9%)が84.2%となり、85%に近づいている。(○)</p> <p>ウの「本校は部活動が盛んである」は、(平成28年度83.1%)が86.4%となり、85%を超えた。1年生は、実質の入部率が7割を超えており、部活動を通して、生徒の主体性の育成が進んでいる。(◎)</p> <p>各行事において、生徒会を中心に活発に活動できており、生徒の「協働する態度」、「責任感」の育成が進んでいる。</p>

府立藤井寺高等学校

<p>3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を充実させる</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通して、インクルーシブ教育システムの理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動の充実 「地域に根ざした、進学したい学校 No.1」 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「チーム藤高（ふじたか）」の発展 イ 海外研修の継続・充実</p> <p>(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア HP による情報発信の充実 イ 「体験入学」、「学校説明会」の充実</p>	<p>(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させ、その広報活動を行う。同時に、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かす。また、年間を通じて「人権教育」を推進し、理解を深める。</p> <p>(2) ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図る。特に、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を行う。 イ ニュージーランドへの海外研修の継続と内容の充実を図るとともに、参加生徒による周りへの啓発活動を進める。</p> <p>(3) ア HP の改善を進める。「求められる情報」のタイムリーな更新を続けていく。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらに ICT を活用し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」（平成 28 年度 82.2%）を、85%にする。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断による「PTA や地域、近隣の学校（支援学校や北小）との交流をしている」（平成 28 年度 78.8%）を、80%にする。 イ 同自己診断による「本校は国際交流活動に力を入れている」（平成 28 年度 78.5%）を、80%にする。 保護者向け学校教育同自己診断による「学校は国際交流活動に力を入れている。」（平成 28 年度 80.7%）を、85%に近づける。</p> <p>(3) ア イ 保護者向け学校教育同自己診断による「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている」（平成 28 年 67.2%）を、70%にする。「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」（平成 28 年 66.5%）を、70%にする。</p>	<p>(1) アの「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」については、（平成 28 年度 82.2%）が 83.0%となり、向上した。（○） 次年度も、さらに向上するよう、外部講師による研修の充実を進めていく。</p> <p>(2) アの地域活動については、「PTA や地域、近隣の学校（支援学校や北小）との交流をしている」は、（平成 28 年度 78.8%）が 81.0%となり、80%を超えた。（◎） 「放課後学習支援」等も 30 日程度実施し、吹奏楽部やフォークソング部、ダンスサークルの活動が拡充しており、地域からの信頼がさらに深まっている。「授業研究」も、初任期育成チーム「ひよたま」を中心に進んでいる。 イについては、（平成 28 年度 78.5%）が 78.4%と横ばいであった。 保護者については、（平成 28 年度 80.7%）が 74.6%となり、下回った。今年度、本校に来校する国際交流がなかったためと考えられる。今年度の成果として、次年度、ニュージーランドのホブソンビル高校の来校が確定しており、同パプアニューギニア高校と合わせて 2 校が来校する予定となった。（○）</p> <p>(3) ア・イの「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている」は、（平成 28 年 67.2%）が 66.1%となり、若干下回った。「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」も、（平成 28 年 66.5%）が 60.8%となり、若干下回った。（△） 今後、メールサービス活用の周知を図っていく。</p>
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 一人一人の生徒支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言える学校」の促進 ア 「藤高」の将来に向けた展望の検討</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制を強化し、学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制の充実を図る。 イ 生徒の通学手段の 98%が自転車利用であり、交通安全指導の徹底を図る。</p> <p>(2) ア 「入学してよかったと言える学校」を将来も継続していくために、「将来構想委員会」を「藤高向上促進委員会」に改編し、将来の展望を検討するとともに、現状の改善を図る。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「悩みを相談できる先生がいる」（平成 28 年 49.8%）を、60%に近づける。 保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる先生がいる」（平成 28 年 53.5%）を、60%に近づける。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校での生活について、先生の指導は適切である」（平成 28 年 72.9%）を、75%にする。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい。」（平成 28 年 75.5%）を、80%に近づける。</p>	<p>(1) アの「悩みを相談できる先生がいる」は、（平成 28 年 49.8%）が、52.8%となり、向上した。保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる先生がいる」（平成 28 年 53.5%）も、56.4%となり、向上した。（○） 教育相談体制改善の効果が徐々に浸透してきている。 イの「学校での生活について、先生の指導は適切である」（平成 28 年 72.9%）は、75.9%となり、75%を超えた。（◎） 常に生徒に寄り添った指導が継続できている。</p> <p>(2) アの「学校に行くのは楽しい。」（平成 28 年 75.5%）が、目標の 80%に近づけるを超え、80%に達した。（◎） 初任期育成教員チーム「ひよたま」の活動を「藤高向上促進委員会」につなげていくことで、継続した将来展望を進めている。 「ひよたま」の活動は、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を取り入れていくことにつながり、次年度の「学校経営計画」に盛り込むことにもなった。</p>